

商学部における特色ある学部教育の補助
「学部授業への授業特別協力者(ゲストスピーカー)依頼」 報告書

テーマ	「システムの『良き因子』として生きる。～欠点も痛みも、社会を動かすリソースに変えるキャリア論～」		
科目名	演習Ⅳ		
担当教員	平澤 敦		
実施日：	1月22日（木）	時限：	6 時限目 実施教室 G G 405 教室

実施趣旨（目的）

本講義では、精神科医療(法人はptsd心の傷、依存症、発達障害などが専門)の現場とソーシャルアクションの経験を通じて、商学部の学生が将来のビジネスリーダー、専門家、また一人の社会人として、知っていて欲しいと願う「社会との向き合い方や心の守り方」と「システム理論に基づくキャリア論」を講じる。

まず、精神科救急や虐待、貧困の現状、児童養護施設や母子生活施設、DVシェルターや自傷・自殺対策支援のクライシスサポート、歌舞伎町界限（トー横）や山谷・西成などの現場で今起きている社会課題を概説する。その上で、何者でもなかった個人が組織の代表として社会に働きかけるに至ったキャリアのプロセスを辿り、個人の「痛み」や「欠点」を社会を動かすための「リソース（資源）」へと昇華させる視点を提示する。

理論的側面からは、社会や組織、人と人とのつながりといった関係性を一つの「システム」と捉え、個人がその中で「良き因子（変化の起点）」として『(being)いる、ある』ことで全体に正の影響を波及させる経験や哲学について解説する。あわせて、他者や社会と向き合う際の「覚悟」や「境界線」の保ち方など、持続可能な生き方、リーダーシップのあり方についても言及し、多角的な視点から自己のキャリア形成について考察を深める内容になればと考えている。

実施結果

講義では、講師の経験を踏まえて、商学部の学生が将来的に活躍を目指すにあたって、「社会との向き合い方や心の守り方」と「システム理論に基づくキャリア論」をメインにわかりやすく解説をしていただいた、特に、様々なコミュニティにおいて、個人が痛みや欠点を感じた際にいかに対応していくのかにつき、いかに対処していくのかを、学生とのディスカッションを通じて共有した。当初の予定していた時間を少しオーバーするほど、学生が講義に関してさまざまな質問や意見を発したことで、よき因子にいかに変化させていくかを発見できたと確信する。きわめて実りの多い機会となった。